各部会のあゆみ

―野間清治顕彰会六年目を迎えて―

桐生出身の野間清治を顕彰しようとの声が上がって十年、出ては消え、消えては出ての繰り返しの中、河原井源治初代顕彰会会長の熱意で、「野間清治顕彰会」が平成九年に発足し活動が始まった。

平成十一年には図書館の前庭に野間清治の顕彰碑が建立された。顕彰碑建立後の会の活動の柱をどこに据えるか・・・・・協議！

活動の方針や組織の体制を構築する中、読書普及を目指した「野間文庫読書推進賞」の設置、桐生の「先覚者の顕彰・紹介冊子」刊行。「顕彰会だより」発行。

本年度の事業は、「ふるさとの風第五集西田博太郎」「顕彰会だより四号～六号」そして「文芸読本二巻」発行。「文化講演会」「視察研修旅行」など展開中で在る。

研修旅行は十一月「熊野古道と新世界遺産を巡る」三月「水ぬるむ羽村・越生」を訪ねる。

先覚者紹介冊子は十二月「西田博太郎」を刊行予定で編集に着手。

これまでに、一集～四集を刊行。

読書推進部編集のふるさとの風別冊「文芸読本二巻」刊行予定（希望の方は五００円バックナンバーあり）

読書推進賞は現在推薦受付け中（問合せは桐生市立図書館へ）

野間記念館建設プロジェクトは有名記念館等参考視察、将来に夢を馳せながら企画書作成のための議論を展開中。（あなたの参加を待っています）

展示会

これまで実施した展示会

「野間清治と少年倶楽部・講談社の絵本展」
平成九年十一月二十日～三十日
桐生市郷土資料展示ホール

「野間清治と講談社展」
平成十年十一月三日～六日
桐生市市民文化会館展示場

「野間コレクションの精髄展」巨匠の作品１５０点～
平成十六年一月十日～二十六日
桐生市市民文化会館展示場

文化講演会

これまでお招きした方々

尾崎秀樹先生（平成九年十一月）「思い出の少年倶楽部時代」
市民文化会館小ホール

瀬戸内寂聴先生（平成十年十一月）
文化会館シルクホール
「源氏物語～千年のラブストーリー～」

渡部昇一先生（平成十年十一月）
文化会館シルクホール
「雑誌王～野間清治を語る～」

五木寛之先生（平成十五年二月）
文化会館シルクホール
「日本人の心」

森戸晃子先生（平成十五年八月）
文化会館スカイホール
「風花の舞う街で」

内山　節先生（平成十五年五月）
文化会館小ホール
「地域文化論」

北方謙三先生（平成十五年二月）
文化会館シルクホール
「人生は旅である」

羽仁　進先生（平成十六年五月）
文化会館スカイホール
「人生は一回きりではない羽仁五郎の息子から出発して～」

視察研修旅行

これまで視察されたところ

東京都　講談社訪問と名園
平成十一年十一月

岩手県　岩手の施設と自然探勝
平成十二年六月

東京都野間記念館と隅田川遊覧
平成十二年十一月

奈良県・京都府
奈良から京都の歴史と文化
平成十三年五月

静岡県　古渓荘訪問と静岡文化
平成十四年五月

東京都
講談社訪問と柴又帝釈天
平成十五年三月

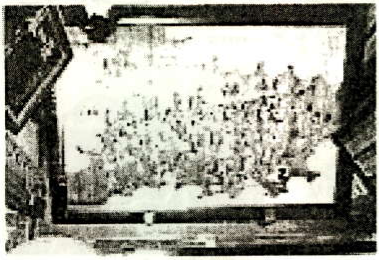
長野県　山国に見る文化の源流
平成十五年十月

神奈川県　みなと横浜過去未来
平成十六年三月

埋れ埋もれた文化財　―その3―

「紗綾市之図」

大出東皐の地元にのこる作品としては、天満宮の「紗綾市之図」絵馬と森山芳平製織物の明治二十三年コロンバス万国博覧会出品の紋緞子織（東京国立博物館蔵）東皐の壺（展示ホール蔵）の下絵がよく知られている。幼名を愛次郎と命名され、江戸神田に生れる。　弘化二年

三歳の時より、文久元年までの、約十六年間桐生に住み、美和神社の寺子屋小島大宮司のもとに通学、このころより前原瓦瀬に絵を学び雅号、愛梅を授かる。桐江とも号した。

東皐が学んだ先人として、石田九野について華紋を学び、中沢雪城の家に寄宿し書道を研鑽、その後南宗画の花鳥家、藤堂淩雲につき花鳥を研究この花鳥に西山四条流の伝統を加味しながら発展させ、明治初期の歴史の一ページを飾るにふさわしい仕事をのこしている。晩年尾張の瀬戸に寄宿し、陶器の下絵書きとして、名を馳せた人物である。幕末から明治初期の桐生ゆかりの文人画家の作として、大切に保存していくべき作である。